

ファン拡大へ テレビ地上波の力



平田竹男

Jリーグを 学問する

2

挙げる人数が年々減っている。テレビですら見たことがない人がスタジアムに行くとは思えない。テレビ放映の在り方を考え直す必要がある。

Jリーグは多くの試合が有料放送で中継されるが、まだ有料放送は加入世帯が少ない。手軽に見られるNHKや民放の地上波放送を増やす工夫が、結果的に資金獲得と普及を両立させる。インターネット中継も同じ強みを持つ。こうした媒体を生かされていかないのが残念だ。地方クラブへの資金援助の必要性は分かるが、今のJリーグは資金獲得に重きを置きすぎ、普及の使命を果たせていない。

W杯南アフリカ大会でMF長谷部が「Jリーグにも足を運んで盛り上げて」と言ってくれた。なのに、今のままで日本代表とJリーグは「別物」だ。W杯で高まった代表の注目度はアルゼンチン戦や韓国戦でも持続されたが、Jリーグに結びついていない。「Jリーグ中継を見たことがある人?」。500人ほどの学生に講義で聞くと、手を

いのと同じという一心。効果は絶大。たまたまテレビを見た人が「女子もいいね」と注目する。スタジアムが埋まり選手のモチベーションも上がる。2大会ぶりの五輪出場を決めた盛り上がりがある。後のなでしこ躍進につながった。

「無料」「手軽」が地上波の力。競技の知識がない人も興味を持ち、スタジアムに来てくれる。看板やユニホームのスポンサーにも有益。熱心な「コアファン」や競技経験者という土台だけでなく、新たなきっかけを提供し広い層を取り込む「逆台形」の構図がサッカーを国民的スポーツに育てるためには欠かせない。

地上波活用の成功例はなしこジャパン（女子日本代表）だ。日本協会専務理事だった2004年のアテネ五輪予選。アジア連盟などと交渉の末、テレビ朝日で北朝鮮戦を土曜日のゴールデンタイムに中継してもらえた。地上波で映らない限り試合をやらな

だ。（早大大学院教授）